

各 位

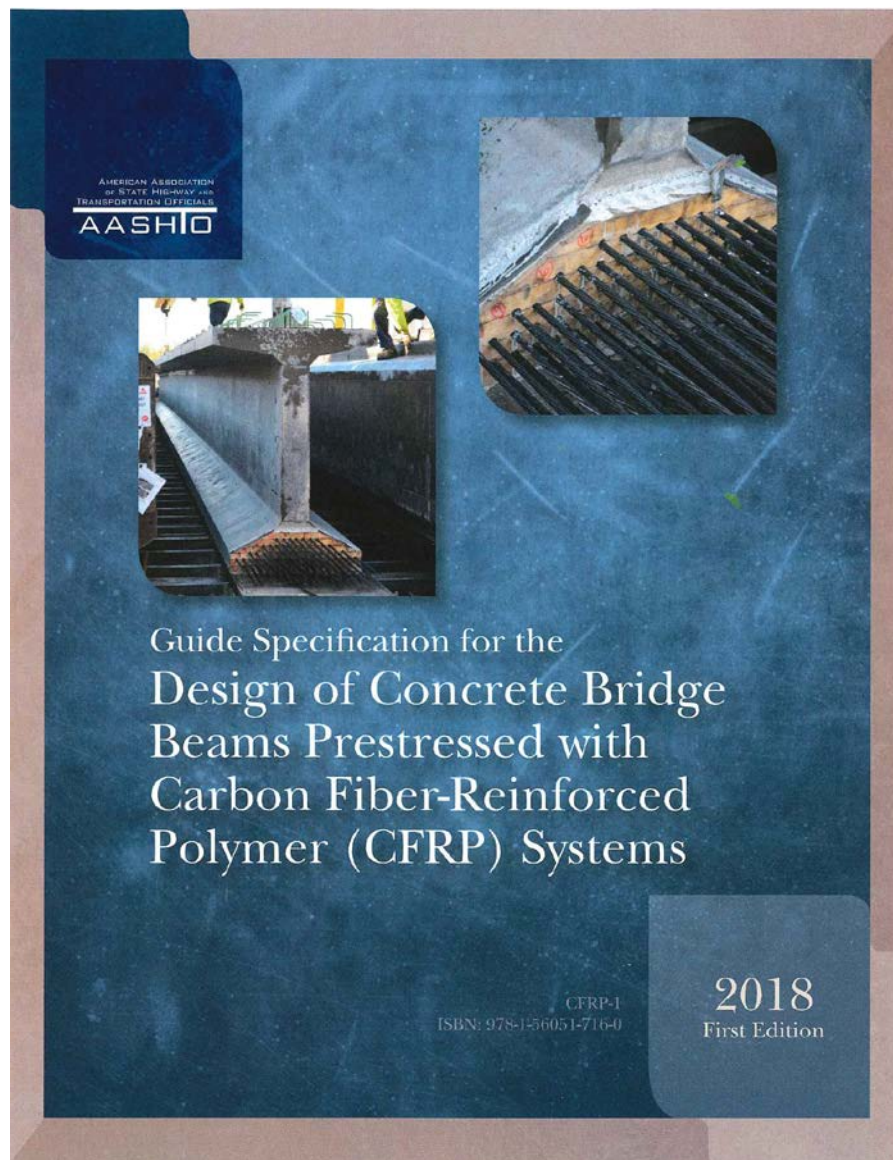
平成 30 年 12 月 26 日

会 社 名 東京製綱株式会社
代 表 者 取締役社長 浅野正也
(コード番号 5981 東証第1部)
問 合 せ 先 専務取締役総務部長 佐藤和規
(TEL. 03-6366-7777)

AASHTO における CFRP を用いた橋梁設計指針の完成について

今般、米国全州道路交通運輸行政官協会（AASHTO）において、CFRP（炭素繊維強化プラスチック）を緊張材として橋梁に用いる場合の設計指針が承認され、正式に書面化されましたのでお知らせいたします。当該設計指針が完成したことにより、全米各州で CFCC®を用いた橋梁桁の設計が可能となり、CFCC®の拡販が期待されます。

※書面化した当該設計指針は AASHTO のウェブストア (<https://store.transportation.org/>) で購入することができます。（下は表紙で、当社の CFCC を緊張材として使用した桁が掲載）



【当社 CFCC 土木事業について】

当社の成長戦略を担う CFCC® (炭素繊維ケーブル) は、送電線と土木の大きく 2 つの事業分野に分かれています。土木事業では、主にコンクリート橋桁の緊張材に使用されます。CFCC® は従来使用されている鋼より線と同等以上の強度と錆びない (高耐食性) という特性を持っており、橋梁の長寿命化によりライフサイクルコストを低減することができます。

土木事業のターゲットとなる地域は主に北米ですが、米国では約 60 万の橋梁が建造されており、その内 20 万強が建造後 50 年を経過、構造的及び機能的に欠陥があるとされる橋梁は、全体の 25% (15 万橋) あるとされています。特に、降雪量が多く融雪剤が大量に使用される北部地域や沿岸部では塩害によって橋梁内部の鋼より線が腐食し、橋梁桁の劣化が問題となっています。当社はこのような地域で橋梁架け替え時の緊張材として CFCC® を普及するべく営業活動を展開しております。米国のミシガン州、オハイオ州、バージニア州、ノースカロライナ州、フロリダ州の 5 州では既に実績があり、ミシガン州においては、ローレンス工科大学主導のもと橋梁の設計指針案が作成され、既に州運輸局での実用化が始まっています。また、コンクリート橋桁の緊張材だけではなく、コンクリート杭の用途としてもバージニア州及びフロリダ州で実績があり今後の需要の拡大が見込まれます。

生産拠点としては 2016 年に米国・ミシガン州で工場を設立し、地産地消のニーズに対応できる体制を整えております。

以上